

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立有明西小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の充実、指導力の向上を目指して職員研修を実施し、教師一人ひとりの授業改善に取り組むことができた。学校と家庭との連携を充実させる。</li> <li>年間通して縦割り活動(縦割りグループ遊び、縦割り掃除)を実施し、異学年との交流および相手を思いやる心の育成につながった。</li> <li>相手よりも先に元気に気持ちのよいあいさつができる児童が増加した。ノーチャイムで時間を守る、外遊びの推進については児童会活動をいかして取り組ませたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	笑顔であいさつ さわやか西小っ子を育てる チーム有西！ ～思いやりと活気、やる気を育てる教育活動の推進～
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>思いやりのある児童の育成を目指して、「絆」「思いやり」を意識した集団活動を充実させる。</li> <li>活気があり進んで取り組む児童の育成を目指して、あいさつレベルアップ、時間を守ること、外遊びを推進する。</li> <li>やる気をもって学び、互いに高めあう児童の育成を目指して、学習を自分たちのものと捉え、何でもトライして失敗をプラスに考え、授業の充実、指導力の向上、家庭学習の推進を図る。</li> </ol>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目										
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有することにより、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・教員全体でマイプランの内容を意識して指導している。効果的に行うためにも研修を計画的に実施し、マイプランの成果指標を再確認しながら、具体的な取組を考え授業実践に生かす。	A	・マイプランを意識し、全職員が学力向上のために工夫しながら授業を実践することができた。個人の目標を達成できたと答えた職員は75%であった。来年度につなげるために、実践をしっかりと振り返り、課題や達成のための方策を考えていきたい。	B	・マイプランの内容の詳細を運営協議会の中でも、紹介してほしい。	・学力向上対策コーディネーター
	○児童がわかる、できると思う授業の充実	○「学習中、自分の考えを書いたり話したりすることができる」と回答する児童85%以上。 ○「教科書をすらすら読むことができる」と回答する児童85%以上。	・1時間の中で書いたり話したりする場を設定する(自力解決、交流、振り返りなど)。その際、短文でまとめたり、別の表現で置き換えたりするなど工夫した指導を行う。 ・「有明西小っ子学びのスタイル」チェック週間や「家庭学習がんばろう週間」を学期に1回設定する。 ・国語、算数の「知識・技能」の定着に向けた取組や読書の推奨を行う。 ・1時間の中で音読する場面を確実に設定する。	B	・「教科書をすらすら読むことができる」と答えた児童は86%、「学習中、自分の考えを書いたり話したりすることができる」と答える児童の割合は、「書いている」と答えた児童が95%、「話している」と答えた児童が67%であった。発表に抵抗がみられる児童が33%いるので、実態を把握し、改善策を考える。 ・基本的な学習館の定着については進んできているので、引き続き取組を続けていく。 ・基礎・基本の定着に向けた取組はどの学年も確実に実施しているため、引き続き取組を続けていく。	B	・「教科書をすらすら読むことができる」と答えた児童は91%、「学習中、自分の考えを書いたり話したりすることができる」と答える児童の割合は、「書いている」と答えた児童が77%、「話している」と答えた児童が72%であった。音読に対する自己評価が向上しているが「書く」発表の値が下がっている。年度後半は特に高学年が学習内容が難しくなるので互いの実践を共有し合うなど教材研究を進め、来年度はぜひ全項目達成したい。 ・年度内での学習内容の確認と定着を図る授業に取り組む、来年度につなげたい。	B	・紹介された情報がアンケート結果だけなので、判断が難しい。教員の結果であまり達成できていない割合があるのが気になる。 ・先生方の献身的な取り組みに感謝しています。	・学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●他者の生命を尊重する心、他者への思いやりの心など、豊かな心を身に付ける教育活動の充実	○「なかよしファミリータイムや縦割り掃除で協力して活動することができた」と回答する児童85%以上。 ○「自分や友達のとよところをみつけて、友達と仲良くすることができている」と回答する児童85%以上。	・学校行事、縦割り活動、委員会活動等の中で、他者への「思いやり」を意識した取組を行う。 ・特別な教科道徳等を関連させた人権集会や総合的な学習の時間と関連させた人権・同和教育を実施する。	A	・1学期の児童アンケート結果による成果指標は達成している。 ・縦割り活動は予定通り取り組めない時期もあるが、上級生を中心に楽しく活動ができてきている。 ・児童は、人権集会やほかほかカードの取組を通して、相手を思いやり、落ち着いた雰囲気や異学年の関わりができてきている。	A	・アンケートの「友達と仲良くすることができる」に肯定的に回答した児童は96.5%であった。毎回、上級生を中心に活動に意欲的だった。 ・「縦割り活動に協力して活動できた」に肯定的に答えた児童は98.3%だった。人権集会やほかほかカードの取組は、本校児童の他者を思いやる心や協力的な態度の育成に適切であった。	B	・学校で行われている教育活動がどんな目的でどのようなものがあったか、協議会の中でできるだけ紹介してほしい。	・集団活動部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員85%以上	・職員連絡会の際に、気になる児童とその対策について話し合う機会を設け、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止に努める。 ・心のお天気や生活アンケート等を定期的に実施し、児童の様子を把握し、いじめの早期発見・早期対応に努め、情報共有を行う。 ・教育相談週間を設定して、児童の理解を深める。	B	・職員連絡会で情報を共有し、心のお天気や生活アンケート等で、児童の様子を把握し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止に努めている。 ・教育相談週間を、6月(全学年)、10月(4~6年)に実施した。1月に1~3年も実施する予定である。	A	・職員連絡会では、毎回児童についての情報交換を行い、最新の情報を共通理解することができた。 ・心のお天気を毎月行ったり、生活アンケートを定期的に行ったりして、児童の実態をつかみながら支援に結びつけることができた。QUテストは2回実施し、児童の心の状態を把握するよう努めた。 ・教育相談週間を年2回設けて実施し、一人一人の児童と話をし、児童の理解や困ったことの解決に結びつけることができた。	B	・情報不足のため、判断が難しいが、アンケートの結果からは、ある程度行われていると思う。 ・いじめのアンケートでは、保護者と児童で数の差がでているが、低学年の児童は、親には話していないのでしょうか。	・教育相談担当 ・保体部
●健康・体づくり	●衛生面の意識強化	●生活の中で、手洗い・消毒に自主的に取り組む児童を増やす(80%)。	・委員会活動で手洗いの励行を呼びかける。 ・手洗い・消毒の環境を整えていく。 ・学級の中で、機会をとらえて呼びかける。	A	・委員会活動で、毎日2時間目の休み時間に手洗いの励行を呼びかけている。 ・液体せっけんやアルコールの補充を定期的に行っている。 ・各学級の中で、手洗い・消毒の呼びかけをしている。引き続き継続していく。	A	・委員会活動で、毎日2時間目の休み時間に手洗いの放送を行い、年間を通じて全校児童に呼びかけることができた。 ・液体せっけんやアルコールの補充を定期的に行っている。環境を整えることができた。 ・児童は、寒い時期でも放送での呼びかけに合わせて手洗いをしようとしていた。	A	・コロナ禍で、教室内外の消毒や授業作り等で大変なご苦労があったと思います。コロナウイルス感染症が落ち着いてからの学校生活を取り戻すことを願っています。	・保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。 ・定時退勤日の実施率75%以上を目指す。 ・全職員で業務内容や働き方について振り返る機会を学期毎に設ける。	・定時退勤日を毎週金曜日、第3水曜日と明確に設定し、意識して実践できるような取組を行う。 ・学期毎に学校運営や業務に関する振り返りを行い、業務の改善、課題の早期解決に努める。	A	・勤務時間の適正化については、職員一人一人が意識をして取り組んでもらっている。勤務内容に軽重をつけるなど工夫した取組が見られる。 ・業務改善についての話し合いは、時間がなかなか取れず充実したものになっていない。継続して実施していきたい。	A	・学校評価の定時退勤日を実施できている割合は、50%と半数しか達成できていないが勤務時間の適正化については、職員一人一人が意識をして取り組んでもらっている。勤務内容に軽重をつけるなど工夫した取組が見られる。 ・業務改善については、充実したものになっていないので継続して実施していきたい。	A	・先生方の献身的な取り組みに感謝しています。先生方、早く退勤できる日がくることを願っています。	・管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	学校関係者評価	主な担当者	
◎志を高める教育	◎児童が目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動(キャリアパスポートの推進)	○キャリアパスポートでの「1年の振り返り」で肯定的な回答をした児童85%以上	・各種体験活動では、児童に活動の見通しをもたせ、学びの振り返りを行う。 ・キャリア教育を意識した授業実践を年間指導計画のもとに行う。	A	・見直しをもたせ、学びを振り返る実践を全教員が意識して行っている。 ・キャリア教育を意識した授業実践については、85.7%の教員が行っているため、引き続き取組を進めていく。	A	・年間を通して、児童に見直しをもたせ、学びを振り返る実践を全教員が意識して行っている。 ・キャリア教育を意識した授業実践については、全教員が行うことができた。	B	・キャリア教育の考え方や内容を運営協議会の中でも紹介していただけたらありがたい。	・教務 ・総合的な学習主任
○あいさつレベルアップ	○あいさつのレベルアップ	○「笑顔であいさつ さわやか西小っ子の合い言葉のもと、「自分からすすんで」「笑顔で」「大きな声で」あいさつができた」と回答する児童80%を目指す。	・年間の生活のめあてにあいさつを位置づけ、具体的なあいさつのレベル「自分からすすんで」「笑顔で」「大きな声で」を児童に示し、あいさつへの意識化を図る。	A	・全校期会での生活講話の中において、必ずあいさつについて取り上げるなどして、意識化を図ることができている。また、「生活アンケート」を実施し、回答を分析する中で、あいさつができていないとされている児童80%以上を達成することができた。	A	・年間を通しての生活目標にあいさつを位置づけることで、あいさつをすすんでしようという意識を高めることができた。その結果、生徒指導部で実施した生活アンケートにおいて、あいさつができていないとされている児童80%以上を達成することができた。	A	・交通立ち番にでていると、子ども達からあいさつをしてくれず。 ・数名声が出ていない子がいますが、毎日声かけをして頑張っています。	・生徒指導部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に見て、どの項目も中間評価と最終評価が維持か上がっている。学校関係者評価については、取組内容について運営協議会の中でも紹介して欲しいという提言がなされた。</li> <li>志を高める教育については、職員研修の充実を図っていきたい。</li> <li>重点目標の「あいさつのレベルアップ」については、年間を通してしっかり取組むことができた。</li> </ul>
--------------------	---